

上：製本作業には機械は欠かせないが「限界がある」という。

下：愛用する道具。



▲一折り、一折り丁寧に紙を折る匠。

匠

TAKUMI

今回ご登場いただくのは、掛け軸の装丁や経本などの製本業を営む鈴木隆二さんです。寺社特注品・掛け軸の仕立てを専門とする会社は、福島県では鈴木さんの会社だけ。仕事の依頼は全国からあるといいます。機械に頼るだけでは決してできない、技術と経験を必要とする製本業を営む匠をご紹介します。

(有)鈴木折本
代表取締役
鈴木隆二
(荒井字東学壇)
TEL.33-4515

鈴木さんは東京生まれ。先代が特殊製本を主として創業し、昭和40年に家業を継いだ。

生産性の向上と省力化に努め、業務を拡大。東京の工場が手狭となったことから、昭和62年に奥さんの故郷である本宮へ移り住み仕事を続けることになった。

折り本は、薄く長い紙をじゃばらに折るので、指先の器用さが要求される。機械では天地の部分がずれてしまうという。「とにかく、折り目をきれいに美しく仕上げること」が大事と話す。千部単位の仕事が多いが、数が少ないときはできる限り手で折るといふ。集中力と根気も要求される仕事である。

掛け軸の装丁は、薄紙に薄く糊を塗り、貼り合わせて20日ほど乾燥させ、完成までひと月ほどかかるそう。大人の人差し指ほどの小さな経本の仕立てを行っていたのは「とても大変だった」と笑って話してくれた。

今は、奥さんと二人、器用さと実直な仕事で、製本の技術を支える匠の姿があった。



みんなのひろば

今月の人

石澤 貴代子さん
KIYOKO ISHIZAWA
(本宮字上町)

石澤さんは、夫と子ども4人の6人家族。趣味と実益をかねて、水晶でプレスレットやストラップをオーダーメイドしているという。

石澤さんは「地球温暖化、食品偽装などが重くなるニュースばかり目立つこの時代。子どもたちに何を残し、何を伝えていかなければならないのでしょうか?」と話していました。



私の随想録

「森の中でピザ屋さん」

こんな話しを聞いたことがあります。人はこの世に生まれる時、自分の魂を育てるために、その胎内を選び生まれてくること、沢山のひとと出会う悩み、苦しむ、そしてその出会いはすべて偶然ではなく、出会うべくして出会うのだと。時計店

を営んでいる家へ嫁ぎ、私を選んで生まれてきてくれた子供を育てることで自分自身も育てられ、早や30年になるうとして今、全く違った仕事を始めることになりました。当初は、不安で一杯、私がピザ屋さん?そんな事では済まないよ!!でも、なつてしまったのです。それがなんと今では、ピザ屋さんを楽しんでいるではありませんか、ピザの生地をグーパーグーパーと回している時、すべてを忘れその事に集中してしまふ、上手にできた時の今まで味わったことのない爽快さと達成感、「おいしかったですよ!」と言ってくくださるお客様の言葉に喜びを感じ、こんな世界があったことを知りました。この仕事との出会いを大切に自分を成長させていく事ができたらいいなと思いつつ、懐かしい程の森の静けさを感じています。

来月は、影山英子さん(和田字作田)の予定です。

FM Mot.Com 秘情報

あの声は、私です...

《パーソナリティ紹介》

- ◆ラジオネーム：頑張る俺たち消防団
- ◆本名：国分宏明、武田尋和、遠藤隆、遠藤智顕
- ◆出身：本宮市
- ◆趣味：防火活動
- ◆担当番組：頑張る俺たち消防団「かしら一中!!」(毎月15日 午後9時00～)
- ◆リスナーに一言：「ラジオを通して消防団の活動や防火を呼びかけていきたいです。また、新入団員も随時募集しています」

心活躍を目指すクラスで全国大会出場の実績もあり、現在も中学生大会や高体連で多くのOB、OGが活躍しております。

(代表 佐々木英人)



実現のため大きく貢献しているところ。 (スポ少認定指導員 大内秀夫)

▼しらすわジュニアテニスクラブは、平成12年4月に活動をスタートし、10年目を迎える。



今回は、県内では珍しい硬式テニスクラブのスポーツ少年団を紹介していただきます。

こどものひろば

「しらすわジュニアテニスクラブ」

登録者数：25人
活動日：毎週土曜日午前10時～、午後1時～
火曜、木曜日午後7時30分～

場所：白沢庭球場または白沢体育館
連絡先：クラブ事務局 佐々木英人
電話：44-4064

最近では久しぶりに活躍した伊達公子選手や若手の錦織圭選手が有名でマッケンローやボルグ、シャラポバなど世界で活躍した選手もそれぞれの分野で現在も活躍しています。

